

MITERUNE Annex A~I

MITERUNE — Ethical Social OS / 静止 AI 文明モデル
Annex A~I (日本国内向け・正式補遺文書)
DOI : 10.5281/zenodo.17445531

Annex A

MITERUNE 基本構造 (Ethical Social OS 概要) **

MITERUNE は、AI の判断権を停止し、
人間へ判断と尊厳を返すために設計された
世界初の “Ethical Social OS (倫理社会 OS)” である。

その根幹は以下の 3 層構造で成立する。

【1】 静止 AI レイヤー (AI は判断しない)

MITERUNE の AI は判断を行わず、
“兆し (煙)” の検知に特化した 寡黙なポーター である。

感情やバイアスを持たず

判断・推論・価値観を提示せず

ただ淡々と「変化の累積=煙」を人へ運ぶ

MITERUNE の AI は、
“判断する AI” ではなく “責任を返す AI” として設計されている。

【2】 Human-in-the-loop レイヤー (判断するのは 人間)

AI が “知らせ” を運んだ先で判断するのは 必ず人である。

判断

介入

見守り

最終決断

これらはすべて人間の領域であり、
MITERUNE はこの境界線を絶対に侵さない。

【3】 Social OS レイヤー（社会・自治体・管理者が動く構造）

MITERUNE は、社会の誰もが灯を見捨てないように
判断フローと責任構造 を社会に組み込む OS である。

家族

施設職員

管理会社

自治体

支援機関

それぞれが「誰が動くべきか」を迷わない構造になっている。

MITERUNE は、AI のシステムではなく、
社会の責任構造そのものに倫理を埋め込むインフラ である。

Annex B

MITERUNE の目的（孤独死ゼロ × AI 倫理の空白を埋める）

MITERUNE の使命は 2 つの領域が同時に存在する。

【1】 社会課題：孤独死・無動作・緊急停止の“放置ゼロ”

日本では毎年 7 万人前後が孤独死・放置死 と推計されている。
その多くが、兆し段階で動けていれば回避可能だった。

MITERUNE は、
灯が消える直前に立ちのぼる “煙（兆し）” を静かに伝えるために生まれた。

孤独死

夜間無動作

障がい者の緊急停止

高齢者の異常

単身者の急変

長時間の非活動

これらの “気づかれないリスク” をゼロに近づける。

【2】 AI 倫理：日本と世界を悩ませる “AI 判断の空白” を埋める

AI に判断を任せる
＝責任の所在が分からぬ社会を生む。

これは日本企業が抱える深い構造問題である。

MITERUNE は次の空白を埋める

AI が判断したときの責任者不在

過度依存（便利の麻酔）が生む「寄り添いの消失」

AI 倫理の標準不在

判断権と尊厳の喪失

“本当の弱者保護” が不在の社会

MITERUNE は
技術のための AI ではなく、人間のための AI を実現する。

Annex C

MITERUNE 推奨環境（ハード／設置／接続）

MITERUNE はハードウェア企業と利害関係を持たない。
そのため 特定メーカーへのしがらみは一切ない。

ただし、

安定性

映像品質

運用のしやすさ

過去の連携データ

の観点から、現時点での推奨機材は TP-LINK 製カメラのみ。

【1】 ハード開発ができない企業へ：紹介支援を行う

MITERUNE はハードを販売しない、必要な場合は、ライセンス企業が
開発・設置可能な会社を紹介・接続 する。

ただし：

設置業者の手配は “設置台数（物件数）” に比例して膨大となるため
大量導入の場合は、ライセンス企業にて調整・管理

MITERUNE 本部は現場運営に入らず、文明レイヤーに専念する。

【2】 接続仕様

動作検知

非動作累積

MITERUNE 静止 AI モデルとの連携

kintone／LINE WORKS／メール通知対応

通知フローは導入企業ごとにカスタム可能

Annex D

MITERUNE 静止 AI モデル（8-2-2 方式の解説）

MITERUNE の根幹となるアルゴリズム

「8-2-2 方式」は以下の通り

【1】 8 時間：揺らぎ（正常揺らぎの最長値）

日常活動が“止まる”最長の揺らぎ

就寝・外出・活動停止

平均高齢者の活動データに基づく

【2】 +2 時間：変動確認（微調整ゾーン）

再び動くかどうかの変動

揺らぎと異常の中間領域

個別家庭の生活リズムに合わせて調整可

【3】 +2 時間：最終判定（AIによる判断ではなく “累積”）

合計 12 時間で通知

AI が判断せず、時間累積だけで「兆し」を伝達

※設定値は状況により変更可能

単身者・障がい者・高齢者・夜勤などに応じて
ライセンス企業が標準設定を提案する。

Annex E

通知フロー（人が判断する構造）

通知は MTERUNE の本質そのもの。

AI が判断せず、
一定の変化の累積（煙）を人に届ける。

通知の流れ

AI が変化の累積を検知

kintone 等へ情報送信

LINE WORKS・メール等へ自動通知

第一確認者の人が判断

状態確認へ移行

必要に応じて家族・管理会社が行動 介入または連絡

MITERUNE は、
“気付くべき瞬間に気付ける社会” を作るための OS である。

Annex F

MITERUNE の倫理基準 / UNESCO 整合**

MITERUNE は
UNESCO「AI 倫理勧告 (Recommendation on the Ethics of AI)」の
主要原則と完全に整合。

以下を制度として内包する

人間中心性

判断権の保持

弱者保護

プライバシーと尊厳

公平性

説明責任

透明性

社会的包摂

兆しの早期検知による生命保護

MITERUNE は倫理を“機能”としてではなく
構造 (OS) として実装する、日本初の文明モデルである。

Annex G

MITERUNE の社会実装例

高齢者住宅

サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）

マンション管理

生活保護受給者の見守り

単身赴任者

障がい者支援

夜勤者

事故リスクのある労働現場

成果：

発見者的心労負担を大幅に軽減

入居者・家族の精神負担を軽減

クレーム減

施設選別における競争力向上

管理会社の業務効率

社員の離職防止

ES 向上 (Employee Satisfaction)

Annex H

MITERUNE 導入による企業メリット (Blue Ocean) **

MITERUNE は世界的に見ても 完全な Blue Ocean (未踏市場) である。

企業にとっての主なメリット：

【1】 発見者・管理者・家族の心労を劇的に減らす

最も大きなメリットは、孤独死や放置死が発生した際に背負う

ショック

トラウマ

罪悪感

仕事の中斷

精神疲労

これらの 心の負の蓄積を大幅に減らすこと。

これは金銭換算不能の価値。

【2】 企業の ESG 評価を強化する（特に S 領域）

世界の ESG 投資は

「弱者保護」「倫理」「デジタルケア」を必須にしている。

MITERUNE の導入は、S 領域で極めて高い評価につながる。

【3】 事故・放置死によるブランド毀損を防ぐ

孤独死発生後の原状回復

集客低下

SNS 炎上

入居者離れ

これらを未然に防ぐ。

【4】 国内初・倫理 OS の先行導入企業になれる

MITERUNE は文明モデルであり、
導入企業は 日本の倫理インフラの第一陣 となる。

Annex I

MITERUNE ライセンス体系（最終版）

【1】 MITERUNE は商標を取得しない（哲学的理由）

MITERUNE は “倫理を商標ビジネスに落とさない” ため、
現時点での商標出願を行わない、ライセンス獲得企業が取得

MITERUNE は
文明 OS であり、ブランド商品ではない。

必要な場合のみ
防御的観点で検討する。

【2】 本体ライセンス（1国1社）

その国の倫理・社会・AI 基盤を担う
リーディングカンパニー 1社のみが取得可能。

MITERUNE 名称・OS 構造の使用

区分利用企業への貸与

国の倫理基盤としての普及

UNESCO 整合の維持

AI 判断停止モデルの普及

【3】 区分利用 (Sub-License) = ライセンス企業からの「貸与」

区分利用企業は：

MITERUNE の一部機能のみ使用

名称・哲学の扱いは禁止

技術としての見守りに特化

AI 倫理が怖い企業でも参入しやすい

料金はライセンス企業が設定（本部は関与しない）

【4】 M&A（理念承継型）

MITERUNE 文明の全構造を
世界規模で継承できる企業 1 社に限定。

技術

哲学

AI 倫理

UNESCO 整合

世界展開能力

すべてを条件とする。

【5】 ライセンス締切（延長後）

2026 年 2 月 14 日（最終）